

ご挨拶

皆さんこんにちは。このたびは本書を手を取っていただきありがとうございます。

キャリアという概念に馴染みのない方が多い中で、本書を手を取っていただいた皆さんは、日本人全体でも少数派に属する「キャリア」に対する意識を持たれている方なのだと思います。

現在少しずつ、本当に少しずつではありますが、日本の労働者や学生たちの中に、キャリアに対する意識が芽生えてきているのではないかと感じ始めています。

私自身も、キャリアという言葉の意味を知らないまま40年以上生きてきました。43歳のとき、当時はまだ民間資格だった『キャリアコンサルタント』に逢い、それからの私のキャリア自体が変わっていったのです。「変わっていった」という表現では語弊がありますね。自ら「変えていけるようになった」のです。

特に私の場合は「自分も誰かの支援をしたい」と考え、自分もキャリアコンサルタントになるべく動きだしました。最初はもちろん知らないことだらけで、なんとなく面白そうで勉強を始めていたのですが、学ぶほどにどつぷりと浸かってしまったのを自覚しています。それから6年の時間が過ぎたところか

らの生活は一変しました。

結果として現在、国家資格キャリアコンサルタント資格を取得し、49歳の秋、それまで勤めていた人材サービスの会社を退職し、人財教育コンサルタント「MIZUKARA」を立ち上げました。



定年を約10年後に控えての独り立ちです。しかも業界である労働市場は、まだまだキャリアコンサルタントングなどという言葉も、「キャリア」に対する意義も知らない人ばかり。旅立った港の先は荒れ狂う高波の海です。

結果はまだわかりません。2020年、2021年のCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）の感染拡大による緊急事態宣言などにも見事に巻き込まれました。家族にも、特に妻には迷惑をかけまくってしまっていることも自覚しています。あらゆる意味で妻には感謝しても陳謝しても、どんなに想っても足りない気持ちです。

それでも今、愉しいのです。

この本を書いている今現在も「自分の脚で進んでいる」という実感がたまらなく嬉しいのです。会社

員として組織の中で働いていた時代の何倍も何十倍も嬉しいのです。失敗すればすべての責任を自分で取る覚悟、起業仲間との助け合い、そのひとつひとつが嬉しいのです。

自分のやりたい未来が見えたとき、そしてそのために一步を踏み出したとき、アラフィフのおっさんである私のキャリアも輝き出したのです。それは、私自身が愉しんでいるからに他なりません。

本書では、そんな輝き始めたばかりのおっさんのキャリアにもちよつとだけ触れながら、皆さんがご自身のキャリアを胸を張って歩んでいけるように、そつと背中を押せたら、そつと背中を支えられたら良いなあ、と思いながら綴っています。

キャリアとは特別な誰かのものではありません。

キャリアとは、世界に1人しかない特別な『私』のための宝物なのです。

本書の中では『私』という表現が、随所に出てきます。これは、今この本を読んでくださっているあなた自身に置き換えてほしい部分です。そう、『私』とは「あなた」のことなのです。

本書はいわゆる「How to本」ではありません。少なくとも私自身はそのような大それたことをするつもりはありません。本書を読み込んでもキャリアコンサルタントにはなれませんし、チームビル

ディングもできるようになるわけではありません。多くの方が自分の望む未来をつかみ取るための大きな流れは書いていきますが、この本の中では解答を示しません。

なぜならキャリアとは一人ひとり異なるものだからです。一卵性双生児であっても成長していくにつれてまったく異なるキャリアを歩むのです。『私』がこれまで歩んできたキャリアと、これからどう在りたいかという希望は千差万別であって、誰一人同じキャリアは存在しないのです。一人ひとりの話を聴いて、その人と真剣に向き合って、初めて「○○のような考え方はどう思いますか？」ってコンサルティングもできるのです。まだお会いしたこともない「あなた」に対して無責任なことはできません。どうしても答えを知りたい人こそ、自分との対話を習慣化しましょう。

時間をかけずに答えを知りたい人は、ぜひ誰かに訊いてみてください。「私はどうすれば良いの？」と、きつと根拠のない無責任な答えを返してくれます。そしてその結果、うまくいってしまった場合は特に、あなたはそれ以降その誰かに依存する癖がついてしまうでしょう。

もしあなたが、なんらかの企業組織の経営者・責任者であるならば、ご自身のキャリアとともに従業員のキャリアも大切に感じてほしいと思います。

組織にとって従業員は使い捨ての道具であってはけません。逆に従業員のキャリアが輝きだしたとき、あなたの会社も輝きだすのです。会社を作ったのはあなたなのかもしれませんが、現在の会社を形

作っているのは従業員の一人ひとりなのですから。その従業員が活性化するとき、企業組織全体も活性化を始めるのです。

本書では、ただただ皆さんが自身の将来を前向きに、主体的に捉えることができる、そのきっかけになれば、と考えています。その将来見つけるであろう宝物を得るために、知っておくと便利なことを数多くちりばめました。そしてあなたが本書を読むたびに心に響く場所は違っていてほしい、とも思っています。ぜひあなたの価値観や、そのときそのときの感情に応じて大切なことを見つけていただけたら嬉しいです。

令和3年初春 肥田憲和

